

令和6年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>&lt;あたたかくつよい集団をつくる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の現状にあった学習オリエンテーションを4月は全校一斉に、学期ごとに低、中、高や学年で行い、どのクラスにも学習規律が定着し、落ち着いて学びに向かう集団にする。</li> <li>・児童会と連携して、学期ごとに、自己肯定感、自己有用感が高まるようにする取り組みを行い、あたたかい集団にする。</li> <li>・不登校を含め、学校生活に不安のある児童の実態把握と教職員との共通理解を図り、有効な手立てや対策を考える。</li> <li>・集団づくり部会で方策を考え、どの児童も安心して過ごせるあたたかなクラスづくりを学校全体で推進していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉の学習オリエンテーションを行い、学習規律の共通理解ができた。二学期以降もゆるみがないように学期始めに現在の実態に合った学習オリエンテーションを行い、落ち着いて学びに向かう集団とする。</li> <li>・二学期以降も児童会企画の活動や各学年の活動後の振り返り、ミニレターのやりとりを大切にしていく。</li> <li>・長期休業中の校内研修、児童理解の会で個々の共通理解をし、継続して、有効な手立てや対策を考える。</li> <li>・学期始めの「みんなでスタート」の項目を担当と児童とで考え、実態に合ったものとし、安心して過ごせるクラスづくりを学校全体で行う。</li> </ul>	
	<p>&lt;児童の主体性を高める&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や学校行事などで児童が主体的に活動を計画・実施できるように支援し、児童の主体性を高める。</li> <li>・児童会活動では、上学年が活躍できる場をつくり、下学年があこがれる上学年となれるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画委員会で毎日あいさつ運動を行ったことで、自分から気持ちの良いあいさつができる児童が増えた。今後も、明るい楽しい学校にするために継続していく。</li> <li>・企画委員会主体で全校で優しい言葉を増やすための取組や全校が楽しめるお祭りを計画、実施したことで、児童の主体性や満足感を高めることができた。</li> <li>・上記の活動後に、下学年から上学年にミニレターを書くことで、下学年は上学年に感謝の気持ちをもっていた。</li> <li>・今後も、児童主体の活動となるように、目的や見通しをもたせつつ、支援していきたい。</li> </ul>	
道徳教育	<p>&lt;「規則の尊重」を重点目標とし、小さなきまりを大切にすることを育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標を校内や教室に掲示し、きまりを守ることへの意識を高める。</li> <li>・地域の方・保護者等、外部人材と連携した授業実践を行う。</li> <li>・道徳通信で道徳的取り組みを保護者に向けて発信し、地域の方や保護者ととも児童の心を育てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室や職員室前の掲示板に重点目標を掲示したり、小さなきまりの徹底していくことを職員間で共通理解したりしたことで、学校全体できまりを守ることへの意識が高まってきた。</li> <li>・2学期以降、地域の方や保護者等の外部人材をゲストティーチャーとして招いた授業を実施し、道徳的価値観の育成を図りたい。</li> <li>・道徳通信を発行し、授業で扱った題材の内容や児童の振り返りを保護者に伝えた。2学期以降も道徳通信を発行し、学校と家庭が連携して児童の心を育てていけるようにする。</li> </ul>	
	<p>&lt;読書の質の向上を図る&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかタイム（朝の帯タイム）で学級文庫を読んでチェックシートに記入する。また、担任や図書ボランティアが学級文庫や司書の選書の読み聞かせを行う。</li> <li>・学習の関連図書、季節や行事に合わせた図書を紹介し、様々な分野の本に触れる機会をもつ。</li> <li>・読書集会で本の紹介をし合うことで、読書のへの関心を高め、選書の幅を広げる。</li> <li>・定期的に家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進する。</li> <li>・毎月1回、家族読書の日を設定し、親子で本に親しむことで、読書への関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間に学級文庫を読むことを推奨したり、毎月1回図書ボランティアの読み聞かせを実施したりして、児童の読書に対する関心が高まるようにした。</li> <li>・司書からの学習内容に関連した本の紹介を適宜行ったり、図書室に季節や行事に合わせたコーナーを作ったりしたことも、児童の読書への関心を高める一助となった。</li> <li>・図書委員会の児童が「読書ビンゴ」等のイベントを企画したことで、図書室で本を借りる児童が増えた。</li> <li>・定期的に家庭向けのお便りを発行し、保護者の読書に対する意識の向上を図った。しかし、児童アンケートの結果から家庭での読書時間が少ないことが分かった。2学期以降は本を持ち帰らせ、家庭での読書の習慣が身に付くようにしたい。</li> </ul>	
人権教育	<p>&lt;自分と他者を大切にしようとする心を育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年で取り組む学習や行事後に、ミニレター形式でふり返りを交流する。</li> <li>・道徳や学級活動で、自分や友達の良いところ見つけを行うことを通して、ありのままの自分を受け入れたり、自己肯定感を高めたりできるようにする。</li> <li>・校内特別支援委員会と連携を図り、本校在籍の外国ルーツの児童に対する理解を深める職員研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年で取り組む学習や行事後の、ミニレターのやりとりが児童の中でもよい習慣となっており、児童アンケートの結果にもつながっていると思われる。さらに高めるため、児童の活躍の場を設定していく。</li> <li>・児童会の企画で、「友達の良いところ見つけ」を行い、全校にも発信することができた。二学期以降も児童が企画した取組を進め、自己肯定感、自己有用感を高めていく。</li> <li>・本校在籍の外国ルーツの児童についての児童理解の会を行い、対応の際に気をつけることなどの共通理解を図る。</li> </ul>	
	<p>&lt;すこやかな身体を育む&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度のスポーツテストの結果で課題となった握力・持久力の向上のため、長縄、準備運動の中での握力向上につながる運動を取り入れる。</li> <li>・学期に1度生活チェックを行い、規則正しい生活を見直す機会を設ける。</li> <li>・2学期の学校保健委員会で「メディアと健康」をテーマに学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・握力向上につながる準備運動を企画し、2学期以降に体育委員会から発信する。また、長縄週間を設け全校で取り組む。</li> <li>・学期に1回の生活チェックから、規則正しい生活は定着しつつある。夏季休業明けに生活習慣を見直すための保健指導を行い、さらに規則正しい生活の定着を図る。</li> <li>・学校保健委員会に向けて、「メディアと健康」に関するアンケートを実施し、学校保健委員会での活用を通して、今後のメディアとの付き合い方を見直す機会とする。</li> </ul>	
情報教育	<p>&lt;ICT機器を活用して、教科の学びを深める&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。</li> <li>・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。</li> <li>・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業で学習用端末を使用した実践を行ったことで、端末の活用場面の幅が広がった。2学期以降も学習用端末を活用した授業を積極的に公開し、教師の端末活用力を高めた。</li> <li>・メディアスキル指導計画表を作成し、各学年で身に付けさせる情報活用能力を明確にした。計画表を指導計画綴りに綴ることによって、達成度を確認できるようにした。</li> <li>・カリキュラムマップにプログラミング的思考の育成に適した単元がはっきりと分かるようにした。2学期以降も、カリキュラムマップにもとづき、授業実践を進めていく。</li> </ul>	
	<p>&lt;開かれた学校づくりの推進&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や特別活動において地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブなど）</li> <li>・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト栽培、サツマイモの苗植え、神社についての調べ学習等、地域人材の活用で、学びや地域の方とのつながりや地域についての理解を深めることができた。2学期も詩吟や箏の体験等において、地域人材を活用し、学習活動の充実を図っていく。</li> <li>・定期的に発行される学校だよりや、HPで学校の様子を伝えていく。また、家庭学習についての便りで保護者の理解や協力を仰ぐことができた。メール配信では、新たに資料室を活用することで、行事予定（下校時刻）や献立について知らせることができた。</li> </ul>	

学校関係者評価	
---------	--